
遊戯王 ～ 四霊使いは可愛い娘～

LEN

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

遊戯王 ～四霊使いは可愛い娘～

【Nコード】

N1015Z

【作者名】

LEN

【あらすじ】

遊戯王の二次創作です！最近またやり始めたら書きたくなくなってきた始めました

主人公、高島蓮哉は転生者。中学三年という中途半端な時期に転生した彼はデュエルアカデミアに通うことになり……？。

シンクロエクシーズはバンバン使います、主に主人公が。チートドロークとかはどうなるか分かりませんが、アニメ効果のカードなんかは使う予定です。良ければ読んでいって下さい。よろしく願います

ブローグその1（前書き）

タイトルに関してはノーコメで。後々出てきます

……色々あつて書き始める事になりました。よろしくお願いします

プロローグその1

上も下も右も左もないただ真っ白な世界。

目を覚ますと、なぜか俺はそこに立っていた。……というか凄いな俺、立ったまま寝てるなんて。支えも無しにだぞ？

えーと、確か俺は……、いつもの様に塾へ行く前にゲーセンによって初。ミ。のアーケードをやって……、それで……

『目が覚めたみたいですね』

——今の誰？、というか本当に此处はどこなんだ？。正直怖いな、俺の精神の中とかふざけて厨二ぶってる場合じゃないのは確かだし。

『……あ、そういえば姿を見せていませんでしたね』

また同じ声が響く。すると突然俺の目の前に何やら白い布を身に纏い、後ろにどでかい翼を生やした男性とも女性ともいえるような中性的な顔立ちの人が現れた

……ん？、翼？

「うおっ！？」

『いきなり姿を現してすみませんね。ただどうしても姿を現さないと話が進みそうにないので。私はモートと言います、以後お見知りおきを』

そういつて頭を下げる……モートさん。ってモート？……モートってもしかすると

「あの……ひょっとして俺、死んだんですか？」

『っ！、……よく気が付きましたね』

「いや、モートって言うとうガリット神話の炎と死と乾季の神の事かなと、思いました……。」

『勤勉ですね、あなたの世界に合わせてウガリット神話のモートという名前を持ってきましたが知っているとは思いませんでした』

そう言うてくすりと笑うモートさん。

いや、ただペル。ナで興味持っただけだからね？あれ、色々なところからネタを引っ張ってくるし。……そういや、デ。サバOCが海外

でも発売されたって聞いたけど、信仰者から見たら喧嘩売ってる
しか思われないんじゃないか？

『正確にはまだあなたは死んでいません。意識不明の重体と言った
ところでしょいか』

「意識不明の重体？。俺何かやらかしましたっけ？」

『……ショックで覚えていないのですね。いいですか？。あなたは
塾と呼ばれるところへ行く前、ゲームセンターと呼ばれるところに
いきました』

うんうん、言い回しがだるいがそれは覚えている。何せ初めてサ。
ハテのEXTREMEでパフェが取れたんだし。

塾へ行った記憶がないとすると……、ゲーセンから塾へ行く途中？

『あなたは横断歩道を歩いている途中、横から来るある異変に気が
付きました』

横断歩道……、横からの異変……、——っ！？

『あなたは安全なところにいましたが……まだ幼き子供がそれに気
づいていないのに察知しました。……後はもう、お分かりですよ
ね？』

「そうだ、…俺は、走ってあの子を抱きかかえて……っ！、そうだ、あの子はっ！？」

『優しいお方なのですね。安心してください、あの子は多少の擦り傷ですみましたよ。ですがあなたは……』

「それで俺はここにいますね。気になってたことが分かってすつきりしました。ありがとうございます。死んではいないんですね？」

俺のその言葉に苦虫を踏み潰したような顔になるモートさん。
なんだ、まだ何かあるのか？

『実は…ここにいますあなたは、あなた自身の魂なんです。普段なら此処へ飛ばされてもすぐにその所有者の体に戻すのですが……何故か反射して体にあなたを入れる事ができないんです。……まるで、あの世界に戻りたくない。そんな感情が強いのか』

「……………」

『自覚があるのですね？。ですが、ここまで強く重い感情を解くとなるとあなたの世界にあわせて約120年から140年。身体の方が持ちません』

……あながちモートさんの言う事は間違っていない。

俺は中学校でも塾でも交友関係が上手くいかず、出来た友達もいつ

嫌われるか不安で仕方がなかった。

こんな口調な癖にトレカやボ。口が好きで、話が出来るやつなんて本の数人だった

地味にDQNも多かったしな。俺には合わなかった

『……そんな貴方にまだ希望があるとしたら？』

「希望？、そんなものがあるならそんな気持ちにはなってませんよ。何ですか？、どこか別の世界に転生させてくれるとでも言うのですか？」

『その通りですよ、貴方には転生してもらいます』

「っ！？、……マジで？」

『大マジです』

やべえ、ちょっと普段の口調が出てきていけないと思ったら寧ろノッてくれた。

さてとこういうパターンだと、どこか決めさせてくれるよな。とある…バカテス…IS…

そう言われると色々出てくるな。

『と言っても行く場所はこちらが決めます。何しろ空きがそこにしかないのですから』

「あつ、そうなんですか……まあそう簡単に人生は上手くいきませ

んしね」

『……とりあえず、高島蓮哉。……こっちに来なさい』

へっ？、今、俺の名前が呼ばれた？。あっ、自己紹介してなかったな、俺の名前は高島蓮哉だ。よろしく

モートさんからは雰囲気さがさつきと違ってかなり怒ってそうで怖いイメージを感じられる。さらに言えばモートさんは俺じゃない反対側のほうに向かってそう言ってる。

……すると、奥から俺に似た同い年ぐらいの奴が現れた……

ブログその1（後書き）

もう一話ブログを書く予定です

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1015z/>

遊戯王 ～ 四霊使いは可愛い娘～

2011年12月3日21時56分発行